

令和元年度 京橋築地小学校 外部評価報告書

外部評価委員：松岡誠一郎、徳堂康彦、江村光良、森田俊秀、鈴木康介、中村輝樹、  
片山善明（敬称略）

報告書作成者：峯川一義

評価時期 令和2年2月

## 1 重点目標の評価

### (1) 重点目標1（丈夫な体とたくましい心を育てる）

○5・6年生の館山臨海学校の遠泳についての評価指標に「泳力を伸ばし、目標の級に進級することができたか。…」とある。外部評価委員から「参加していない学年の児童や保護者も評価する」ことについての質問があった。また、この行事の意義や目的についても検討を要望する委員の意見もあった。一方、教職員は肯定的な回答が100%であり、学校はこの調査項目についての適切な説明が求められる。

○持久走にかかわる質問では、保護者は90%以上が肯定的評価なのに対し、教職員は肯定的な評価は約50%で、特に、「十分達成」と回答したのは「0」である。学校の重点目標について、教職員がどのように意識して取り組んだのかを振り返り、具体的な数値目標を定めて改善策を示す必要がある。

### (2) 重点目標2（言葉の力を育てる）

○保護者への3つの質問項目はいずれも80%が「十分達成」、あるいは「達成」であり、児童もほぼ同様の結果であった。しかし、教員の評価では、「…語彙が広がり、適切に用いる力が伸びたか」については、「十分達成」が「0」、「達成」が約65%、「要改善」が約35%であり、教員の評価の方が実態に近いと考える。重点目標2の大きな課題と捉え、具体的な改善策が必要である。

### (3) 重点目標3（互いに認め合い、思いやる人間関係を育てる）

○3つの重点目標の中で、保護者はいずれの質問に対しても肯定的な回答が90%を超えている。また、ほとんどの教員が「十分達成」「達成」と回答しており、子供たちの学校生活における人間関係が円滑であり、教職員の指導の成果と考えられる。

## 2 今後の改善に向けた意見

○保護者アンケートの回収率が60%に満たなかった。外部評価委員から「物言わぬ批判」との指摘があった。回収する学校の体制に問題はなかったのか、この状況を真摯に受け止め次年度に向け改善が必要である。

○児童アンケートの「先生は悩みなどについて話しやすいか」に対して、約30%の児童が否定的であり、過去3年間の中でも最多である。子供に寄り添う教師のあるべき姿を話し合い実践することを期待する。

## 3 その他の意見

○教職員の評価で、「十分満足」が60%超で「満足」と合わせて100%である設問の上位は「特別支援教育」「保護者、地域住民との連携」「保健管理」の順である。特に、「保護者、地域住民との連携」は保護者も「十分満足」が80%超、満足と合わせると98%で、保護者、地域の期待に応える教育活動が行われていることがうかがえる。

○全体的に教員の評価は、「十分達成」「達成」が90%を超え100%に近いものが多く、日頃の教育活動に自信をもって取り組み成果を上げている姿が、自己評価から見えてくる。児童の健やかな成長に寄与するよう一層の教育活動の充実を期待する。

令和元年度 中央区立京橋築地小学校 外部評価報告書
外部評価委員：松岡誠一郎 徳堂 康彦 江村 光良 森田 俊秀 鈴木 康介 中村 輝樹 (敬称略)
報告書作成者：株本 光子
評価時期 令和2年3月
<p><b>1 重点目標の評価</b></p> <p><b>重点目標1「丈夫な体とたくましい心を育てる。」について</b></p> <p>第1、2、3項目とも肯定的評価は、児童約83%、保護者90%前後に対し、教員は100%、50%、67%とその数値に大きな開きがある。この数値の違いは、何を意味するか、その原因は何かなどを考えることが必要である。教員の第2、第3項目の「改善を要する」は、何を意味しているか組織で明らかにし、次年度への改善に生かす必要がある。</p> <p><b>重点目標2「言葉の力を育てる。」について</b></p> <p>3つの質問とも、肯定的評価は、児童80%、保護者80%前後に対して、教員は100%、100%、67%と数値に大きな開きがある。重点目標1と同様、この数値の違いが伝えるものを読み取り、改善に生かすことに、学校評価を行う意味がある。組織的に話し合い、「改善を要する」とした6名の教員の意見をもとに学校の取組を見直す。</p> <p>経年変化から、保護者評価80%が3年間続き、漸減傾向にある。また、児童の「あまりあてはまらない」「当てはまらない」が今年度10%程度増加している。これについても、全校で原因分析し、どこに問題があったかを明らかにする。詩や作文の取組は、本校の特色の一つである。実施計画、教師の取組、保護者への説明など多面的に分析し、根拠を明確にした改善策を期待している。</p> <p><b>重点目標3「互いに認め合い、思いやる人間関係を育てる。」について</b></p> <p>異学年、園時との交流によって思いやりやリーダーシップなどが育っていると捉えられる。問題は、同学年・学級内での授業や話し合いの場で、互いの思いや考え、立場を認め合う関係に改善の余地があると読み取ることができる。また、児童の「全体の評価」の設問2「学校に行くのは楽しいですか」、同4「先生は悩みなどについて話しやすいですか。」などに「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の数値が大きいことと関連付け、なぜこうなっているかを明らかにし、取組の改善に生かす。</p> <p><b>2 今後の改善に向けた意見</b></p> <p>○ 学校評価は、目指すべき目標の達成状況や達成に向けた取組の適切さを評価することにより、学校としての組織的・継続的な改善を図ることが目的である。</p> <p>年度初めの、評価項目、評価指標の検討・確定は、第1段階。教員、児童、保護者へのアンケートの実施・結果の集計は、第2段階。第3段階は、全教員が組織で分担し、教員、児童、保護者アンケート結果、経年変化等の数値を比べ、1年間の取組の適切さ、達成状況について分析する。そして、よさや問題点、その原因を明らかにし成果や課題を捉える。第4段階は、教育活動の質の改善につなげるために、次年度、取組のどこをどのように改善するかを具体化する。この分性・考察、改善策を含め文章化し、教員で共有するとともに、外部評価委員会で説明する。これら学校評価の一連の作業を次年度の当初から取り組んでいただきたい。</p> <p>○ 保護者のアンケート回収率は、なぜ100%にならないのか。学校の姿勢を見直す必要はないか、考える。</p> <p><b>3 その他</b></p> <p>○ 児童への「先生は悩みなどについて話しやすいですか」という設問に、100%「よくあてはまる。」と来年度の1学期末の中間評価の表れるよう、早急に策を講じていただきたい。</p> <p>○ 前回、第三者評価委員として訪問した時と比べると重点目標への取組である評価項目や評価指標の立て方に大きな前進がみられる。また、児童の姿にも変化を捉えることができる。その成果を生かして、組織として教師が主体的に自己評価を行い、次年度のよりよい改善策を創り出すことを期待する。</p>